

# 資料 3

令和5年度第5回市民活動推進委員会 ワークショップまとめ  
 市民が市民活動に参加したくなるようにするために、実践（または意識）していること

		市民活動の分類分け		
		サークル活動	ボランティア活動	事業型
	ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を実践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動
	特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何ができるか、奉仕的な視点を含めた貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対価を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動
活動に参加してほしい年齢層	若者（10～30代）	① 大学のサークル活動とイベントを行うことでつながりを作る イベントにボランティアとして参加してもらう まず、自身の好きなやりたいことでサークルを作る（市民活動とは関係なく）	② 自分の好きなことを広げる活動となること意識を持つようにする 若者が地域活動に参加し、SNSを活用する仕組みづくり 学校教育との連携 地域学習での交流・実践を知る機会に	③ 若手の人に積極的に声をかけ、介入しながら若手の人に任せる アイデアの具現化をサポート インターンとして受け入れ 授業との連携
	子育て世代（20～40代）	④ スタッフの活動を一定期間見てもらい、雰囲気を感じてもらう 全てを丸投げするのではなく、みんなで併走する 自主性を重んじながら、その人の得意を見つけてもらい、そこで活躍するような自分を発見してもらう時間を設ける 一緒に進めていく（併走していく）中で、ある程度したら、一歩引いてひとり立ちできるように流れを作る	⑤ 子供も含めた活動であることへの認識 参加者アンケートをきちんと集計・発表・共有している（フィードバック）	⑥ イベント参加者に対する勧誘 子育てに忙しく、経済的にも少しでも収入を増やしたい・一個人として社会に役立ちたいニーズを考慮し有償
	中高年世代（40～50代）	⑦ 活躍しそうな人材を団体にいかに引き込むか 名誉的・金銭的にやる気を起こす	⑧ 地域における仲間づくり 自分の本業にも活かせる あこがれるようなキーマンがいるあるいは、みんなでそれを目指そうというビジョンを明示している 今後の中心になる人 一人に責任を集中させない	⑨ 地域における仲間づくり 自分の本業にも活かせる あこがれるようなキーマンがいるあるいは、みんなでそれを目指そうというビジョンを明示している 適材適所の見極め
	高齢者世代（60代以上）	⑩ 活躍しそうな人材を団体にいかに引き込むか 名誉的・金銭的にやる気を起こす	⑪ 人生が長くなったことや定年延長などにより、今までのターゲットの年齢層より高い世代に声をかけていく必要がある 価値観・方向性の共有	⑫ 健康 やりがい これまでの人生経験・仕事での知識や技術が社会に役立つことを理解 負担が大きくなならないこと 長く活動してもらう
	全世代	⑬ 世代に合わせたイベント内容を実施 多世代と一緒に活動することでどんな楽しみ、メリットが増幅するか伝える	⑭ やりたい分野・得意分野に応じて参加できる雰囲気づくり 発言したくなるように日頃から様々な声掛け お試しの機会を設ける スタッフの適材適所を大切にしており、その結果、スタッフ自身が参加しやすい環境に繋がっている	⑮ 敷居を下げて、いろんな人に入ってもらいやすいような環境をつくる 定期的に達成感のシェアを図る 得意分野が活動とどうつながるかわかりやすく伝える
一代限り	⑯ 専門的なものづくりの経験があるメンバーで運営しているため、全く同じ活動を引き継ぐことは難しい すべての市民活動が必ずしも世代交代を望んでいるわけではない			
①～⑮共通	活動をいかに知ってもらうかの広報 みんなが協力できる、自分の仕事に魅力が持てるように 参加者が運営側にある程度スライドしていかないと団体としては維持出来ない どのような活動であるにしろ、持続していくためには新しい人が入ってこないといけない 複数の（なるべく多くの）団体が集まるイベント 運営ノウハウ集があると便利（スタッフ集め・資金・活動場所など分野ごとの基礎的なこと） 得意なことを広げる			
その他、多くの分野にまたがるもの	①～⑥同世代の人々と意識や悩みを共有できる機会とする ①～⑨誤解を解く ①～⑫何に興味があるのか？参加したくなる動機を明らかにする ④～⑥活動時間の多様性 ④～⑥子供を預けられるサポート ④～⑨現在の生活の負担感の軽減になる ⑩～⑫（定年）退職後の生きがい・社会とのかかわり・貢献の機会とする			

令和5年度第5回市民活動推進委員会 ワークショップ成果 Aグループ

団体運営スタッフや参加者を増やす（呼び込む）ために実践（または意識）していること・意見など

		市民活動の分類分け		
		サークル活動	ボランティア活動	事業型
	ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を実践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動
	特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を 重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何が出来るか、奉仕的な視点を含め た貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対価 を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動
活動に参加 してほしい 年齢層	若者 (10～30代)	① 大学のサークル活動とイベントを行うことでつながりを作る イベントにボランティアとして参加してもらう (同世代)交流 興味のある内容 若者向けには「さも市民活動」的でない方が参加しやすい？	② 若者向けには「さも市民活動」的でない方が参加しやすい？ 自分（たち）の存在 活動の意義	③ 若者向けには「さも市民活動」的でない方が参加しやすい？ SNSを活用したPR
	子育て世代 (20～40代)	④	⑤	⑥ イベント参加者に対する勧誘
	中高年世代 (40～50代)	⑦	⑧ 地域における仲間づくり 参加しやすい活動をどう作るか 地域の防災などのような話題を取り上げられる場づくり	⑨ 地域における仲間づくり
	高齢者世代 (60代以上)	⑩	⑪	⑫ 健康 自分（たち）の存在 やりがい
	全世代	⑬	⑭	⑮
一代限り	⑯			

①～⑮共通	<p>イベントの情報が欲しい（いつ・どこで・どんなが手軽にわかる方法）                      広報（SNS・チラシ）                      対面の活動とオンラインの活動で役割分担を明確に                      スタッフのためになる・得になる活動を                      口コミ                      複数の（なるべく多くの）団体が集まるフェスを                      イベントを行う                      体験した活動だと参加しやすい                      運営ノウハウ集があると便利（スタッフ集め・資金・活動場所など分野ごとの基礎的なこと）                      得意なことを広げる</p>
-------	--

その他	<p>「全体」が多い                      立場で分ける？（主催者・参加しようとしている人・イベント参加者）                      横軸が違う？                      ずっと参加しなくてはいけないとまどい                      より手軽に                      きっかけを多く、ハードルを低く                      アルバイト募集VSスタッフ募集                      一時的なスタッフ募集のマッチング制度はあるか？</p>
-----	--

令和5年度第5回市民活動推進委員会 ワークショップ成果 Bグループ

団体運営スタッフや参加者を増やす（呼び込む）ために実践（または意識）していること・意見など

		市民活動の分類分け		
		サークル活動	ボランティア活動	事業型
	ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を实践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動
	特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を 重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何が出来るか、奉仕的な視点を含 めた貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対 価を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動
活動に参加 してほしい 年齢層	若者 (10～30代)	① 大学にあるサークル以上の価値 SNSの活用(反応を返すところまで)	② 関係する人を増やす 何の役に立とうとしているかのキャッチフレーズを決めている	③ 若手の人に声掛け⇒どのように？ 地域にいる若者は既に活動している
	子育て世代 (20～40代)	④	⑤ 参加者アンケートをきちんと集計・発表・共有している（フィードバック）	⑥ 家族の理解を得られるくらいの収入
	中高年世代 (40～50代)	⑦	⑧ 自分の本業にも活かせる あこがれるようなキーマンがいるあるいは、みんなでそれを目指そうというビ ジョンを明示している	⑨ 自分の本業にも活かせる あこがれるようなキーマンがいるあるいは、みんなでそれを目指そうとい うビジョンを明示している
	高齢者世代 (60代以上)	⑩ インターネット世代VS非インターネット世代	⑪ 価値観・方向性の共有	⑫ インターネット世代VS非インターネット世代
	全世代	⑬	⑭	⑮
	一代限り	⑯		

3つ以上にまたがるもの	<p>①～③親のつながり（自治会・PTAなど）で参加する人が多い</p> <p>①～⑥同世代の人々と意識や悩みを共有できる機会とする</p> <p>①～⑨誤解を解く</p> <p>①～⑫何に興味があるのか？参加したくなる動機を明らかにする</p> <p>④～⑥活動時間の多様性</p> <p>④～⑥子供を預けられるサポート</p> <p>④～⑨現在の生活の負担感の軽減になる</p> <p>⑩～⑫（定年）退職後の生きがい・社会とのかかわり・貢献の機会とする</p>
-------------	--

キーワード	<p>付加価値・社会的評価</p> <p>ロールモデル</p> <p>意識の共有・ビジョン・キーマンの存在</p> <p>家族の理解・負担感の軽減</p> <p>市民活動に参加したくなるには！？</p> <p>⇒活動推進につながる 上から目線で「増やす」ではなく自発的に 生きがい</p> <p>わかりやすい広報</p> <p>お茶会・ランチ会・懇親会</p>
-------	--

令和5年度第5回市民活動推進委員会 ワークショップ成果 Cグループ

団体運営スタッフや参加者を増やす（呼び込む）ために実践（または意識）していること・意見など

		市民活動の分類分け		
		サークル活動	ボランティア活動	事業型
ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を实践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動	
特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何が出来るか、奉仕的な視点を含めた貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対価を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動	
活動に参加 してほしい 年齢層	若者 (10～30代)	① 地域単位で若者を発行者としてSNSを利用したサークル活動を推進できる 仕組みづくり（参加者は多世代） まず、自身の好きなやりたいことでサークルを作る（市民活動とは関係なく） 学校教育との連携 地域学習での交流・実践を知る機会に SNSの利用（XだけでなくInstagram、TikTokなども） 大学・高校とのつながり	② 学校教育との連携 地域学習での交流・実践を知る機会に SNSの利用（XだけでなくInstagram、TikTokなども） 自分の好きなことを広げる活動となることの意識を持つようにする 若者が地域活動に参加し、SNSを活用する仕組みづくり	③ アイデアの具現化をサポート インターンとして受け入れ 授業との連携 チャレンジ教室（学校へ大学生が入る）⇒やる中で市民活動だと気づく
	子育て世代 (20～40代)	④	⑤ PTA活動又は活動参加者を地域活動（NPO型）に継続参加してもらう仕組みを作る 子供も含めた活動であることへの認識	⑥ 現状のマッチングファンドを地域課題の解決を提起する起業者への門戸を開く まずは定着してもらう 子育てに忙しく、経済的にも少しでも収入を増やしたい・一人として社会に役立ちたいニーズを考慮し有償 ⇒子育て世代、有償ボランティアであれば入りやすい？ ⇒イベント型（継続的でないもの）なら入りやすい
	中高年世代 (40～50代)	⑦	⑧ 今後の中心になる人 一人に責任を集中させない	⑨ 適材適所の見極め リーダーとなる人をどのように育てるか
	高齢者世代 (60代以上)	⑩	⑪	⑫ イベントを実施する これまでの人生経験・仕事での知識や技術が社会に役立つことを理解 負担が大きくなるらないこと 長く活動してもらう
	全世代	⑬ 多世代と一緒に活動することでどんな楽しみ、メリットが増幅するか伝える	⑭ ボランティア活動の必要性（課題）を自分ごとにしてもらう機会づくり	⑮ 得意分野が活動とどうつながるか分かりやすく伝える
一代限り	⑯			

キーワード	個人と市民活動をいかにつなげるか そもそも自分にとって興味がある⇔楽しさ、学べる ⇒サポートのあり方 ⇒気づかせる（これが市民活動！という） ⇒市が支える 窓口のあり方 掲示板のような 情報が多すぎ QRコードとか ゆるさ 社会変容へ 人と人のつながり ⇒すでにある地域の資源をどのように使っていくか ⇒広がっていく ⇒つながり・関心
-------	--

その他	自分と世界（地域）とのつながりの意識 10～20代は自分のことで忙しい時代 「市民活動」と意識しないで活動する⇒「それ市民活動！」ということを伝える どこに集まれば個人的な活動か 集団的（市民活動）につながれるか⇒リソース
-----	--

令和5年度第5回市民活動推進委員会 ワークショップまとめ

マトリックスにおける市民活動団体の例（図で示しているものはイメージであり、様々な範囲にまたがるケースもあります）

		市民活動の分類分け			
		サークル活動	ボランティア活動	事業型	
	ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を实践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動	
	特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を 重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何が出来るか、奉仕的な視点を含め た貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対価 を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動	
活動に参加 してほしい 年齢層	若者 (10～30代)	① レクリエーション 活動	② ボーイ・ガールスカウト	③ 学習支援・居場所づくり	
	子育て世代 (20～40代)	④ 親子サークル	⑤ PTA	⑥ 子ども食堂 学童	
	中高年世代 (40～50代)	⑦ 文化・芸術 サークル	⑧ ガイド会	⑧ 自然・環境 保護活動 交通安全 防犯・防災	⑨ CSR活動
	高齢者世代 (60代以上)	⑩ 文化・芸術 サークル	⑩ ガイド会	⑪ 自然・環境 保護活動 交通安全 防犯・防災	⑫ 福祉施設 支援活動 生活介護 介護予防
	全世代	⑬ 趣味のサークル	⑭ スポーツ	⑭ 自治会	⑮ まちづくり
	一代限り	⑯ 個人の資質や能力が必要な活動・活動の広がりを目指さない活動など			